

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

深まる～人との関わり～／学校法人 あおい学園 あおい第一幼稚園

保護者・地域の方と子どもたちとの関わりをどのように工夫していますか？

栽培活動の過程で、人と関わりながら、植物を育てる楽しさを感じ興味を深めている子どもたち。さらに、様々な気づきを積み重ねて、「人や自然を大切にできる心」や「感謝の心」が育まれていきます。

植物を育てる中で、先人の知恵に学んだり、自分たちの思いを伝えたりしながら、保護者・地域の方と一緒に植物を育てる楽しさを味わうなど、交流を大切にしている園の事例をご紹介します。



○ みんなでオクラを育てよう／5歳児

✦ おじいちゃんから学ぶ

年度当初5歳児は、みんなで何の野菜を育てるかを相談した。子どもたちからは、これまでの経験を踏まえた様々な意見が出た。1番人気は枝豆だったが、最終的には「枝豆よりも何度も収穫を楽しめるオクラ」を育てることになった。

子どもたちの栽培活動に祖父母など地域の方の協力を得て、世代間交流がもてないかと考え保護者の方に募ったところ祖父2名が声を挙げてくださった。

週に1度『畑の日』を設け、そこで作物の育て方を教えていただき、子どもたちと一緒に畑仕事をするることによって関わりがもてれば…と初めての試みをした。

「畑ってどうやってできたの？」と、子どもたちの質問に、「昔、木を切り倒し、土を平らにしたんだよ」「畑を作るために馬・牛・鶏を飼育して、動物の肥やし(糞)を混ぜて作ったんだ」などのお話しをしてくださった。



✦ オクラ畑で

祖父：「たくさん、お水をあげるんだよ」

子ども：「どうして？」

祖父：「この場所は日当たりがいいから、お水がいっぱい必要なんだよね」

するとHちゃんが、「水をあげる時は土を見ればいいんだよ」「土が白いと乾いている、土が黒いと湿っている」と言った。

Hちゃんは、家庭で野菜を栽培していて、母親からそのことを教えてもらったようだ。その話を聞いた子どもたちは、土が黒くなるまで毎日水をあげるが、オクラは変化がない。

「水もあげてるのに、なんで大きくならないの？」「きっと、水が冷たいからじゃない？」「まだ、寝てるのかな？」と心配していた矢先、梅雨に入る。

連日雨が降り、久しぶりに畑に行くと、所々に水溜りができ、芽が少し伸びていた。「こんなに水溜りになるくらいあげなきゃいけなかったんだね」と今まであげていた水の量が全然足りていなかったことにみんなで気付くことができた。

子どもたちは、保護者が園に来ると、オクラ畑に連れていった。

保護者は、「あっ！これがオクラなんだね」「大きくなるといいな」など畑に興味をもち、子どもたちの思いを受け止めてくれた。



✦ 様々な気づき～収穫

子どもたちは、おじいちゃんから学んだことを活かして、オクラを大切に育てた。

1日でどれくらい育つのか？を割り箸を物差しにして調べたり、オクラの実の生り方に驚いたり、葉っぱの形状が生長すると変化することに気付いたりなどと、興味を深めていった。7月下旬、収穫が始まった。

9月に入ってもオクラは生長を続け、子どもたちを抜かすほど背が高くなり、たくさんの実を付けていた。それを見た子どもたちは「ジャングルみたい!!」「オクラ、増えた?!」「ここにかくれんぼしたら、見付からなくていいね」と驚いていた。

今回の収穫には祖父も駆けつけ、手取り足取り教えてもらいながら収穫をした。

保護者にも収穫を報告すると「うちの子は普段はオクラ食べないのに…」「幼稚園で食べてから、我が家はオクラブームなんですよ」などの反応があった。



✦ 振り返って…

子どもたちは本当によく自ら畑に足を運び、様々な変化に気付いていた。中には「今日はどうかな?」「早く大きくなってね」と自分がオクラのお母さんになったかのように、話しかけている子どももいた。栽培を通して、発見や感動を伝え合い、1つのことにみんなで行き届いていくことで、仲間との繋がりが深まっていったように思う。

オクラを育てた感想を、子どもたちに聞いてみると「いっぱい食べられてよかった」「採っても採ってもすぐにできるからビックリしたよ!」「毎日、お水あげるのが楽しかった」など、いろいろな声が挙がった。

祖父の知恵を借りたことによって、子どもたちも「おじいちゃんがいなかったらあんなに大きくならなかったかも」「何でも知ってて、すごかった!」「仲良しになれて嬉しかった」と今までにない経験をする事ができた。定期的に畑を見てもらい、「肥料をあげた方がいい」「雑草を抜かないと栄養を持っていかれてしまう」などアドバイスをもらい、保育者も子どもたちと一緒に学ぶことができた。祖父たちの協力に心から感謝している。



保護者にも畑に興味をもってもらいたいと思い、月に一度配布している学年便りに子どもたちと畑で発見したことや、エピソードを伝えていった。すると、保護者も興味をもち、子どもたちと一緒に、雑草抜きや水やりをする姿が見られ、嬉しく思った。保護者からは「子どもから話を聞いていたが、(実際の様子が)よく分かるようになった」というお話を伺うことができた、伝えていく大切さを改めて感じる事ができた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」